令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

国　語

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている	・話し合いの中で、必要に応じて質問しながら話の内容を正確に捉えること。	・話合いの目的や流れを意識し、相手の意図を確かめるための効果的な質問の仕方を工夫する学習活動を充実させる。
・「話すこと・聞くこと」 ○全国平均を上回っている。	・タブレット端末などで整理された情報と情報との関係を正確に把握すること。	・図表や情報端末を活用し、複数の情報のつながりや構造を整理・比較する学習活動を充実させる。
・「情報の扱い方に関する事項」 ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。		
・「書くこと」 ○全国平均を上回っている	・文章全体の内容を三つに大別して中心的な部分と付加的な部分を捉えること。	・文章の段落構成や要旨を捉え、筆者の主張と具体例の関係を読み解く学習活動を充実させる。
・「読むこと」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている 	・文脈に即して語句の意味を捉え、同じような内容を表す表現を文章中から正確に抜き出すこと。	・辞書を活用して語彙を広げ、文脈に応じた表現の違いや効果を味わう学習活動を充実させる。

《表現の意味》　全国平均正答率と比較して
○上回っている･･･＋3.1 ポイント以上
◇ほぼ同程度であるが、やや上回っている･･･＋3 ポイントの範囲内で全国平均以上
□ほぼ同程度･･･全国平均と同じ
◆ほぼ同程度であるが、やや下回っている･･･－3 ポイントの範囲内で全国平均以上
●下回っている･･･全国平均正答率と比較して－3.1 ポイント以下

数　学

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 ・「数と式」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。	・起こり得るすべての場合を樹形図や二次元の表などを利用して漏れなく整理し、確率を求めること。	・樹形図や表を用いて場合の数や確率を順序よく整理し、根拠を明確にして求める学習活動を充実させる。
・「図形」 ○全国平均を上回っている。	・箱ひげ図と四分位数の対応を理解し、データの分布の特徴を正確に読み取ること。	・箱ひげ図やヒストグラムなど複数のグラフを関連付け、データの散らばりや傾向を読み取る学習活動を充実させる。
・「関数」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。	・複数の度数分布多角形の形と位置を比較し、データの傾向や判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。	・日常生活や社会の事象についてデータを比較・分析し、判断の理由を言葉や式で説明する学習活動を充実させる。
・「データの活用」 ●全国平均を下回っている。	・具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすこと。	・図形の性質を観察や操作を通して確かめ、証明の仮定と結論を整理する学習活動を充実させる。



《表現の意味》　全国平均正答率と比較して
○上回っている・・・＋3.1 ポイント以上
◇ほぼ同程度であるが、やや上回っている・・・＋3 ポイントの範囲内で全国平均以上
□ほぼ同程度・・・全国平均と同じ
◆ほぼ同程度であるが、やや下回っている・・・－3 ポイントの範囲内で全国平均以上
●下回っている・・・全国平均正答率と比較して－3.1 ポイント以下

英　語

課題	改善の方向
聞くこと ・まとまりのある発表を聞き、出来事の順序など話全体の概要を捉えること。	・英語の音声やまとまりのある話を聞く際、全体の流れや時系列を意識してメモを取りながら概要を把握する学習活動を充実させる。
読むこと・書くこと ・社会的な話題に関する文章を読み、要点を捉えたうえで自分の考えとその理由を英語で書くこと。	・身近な社会問題やニュースなどを題材に、自分の意見と根拠を整理して英文で表現する学習活動を充実させる。
話すこと[やり取り] ・やり取りの中で相手からの質問を聞き取り、状況に合わせて即座に自分の予定や考えを伝えること。	・ペアやグループでの即興的な対話活動を通して、目的や場面、状況に応じて適切な表現で応答する学習活動を充実させる。
※英語は IRT（項目反応理論）スコア及び公開問題による調査のため、平均正答率の比較は掲載せず、各領域の課題と改善の方向をまとめています。	

質問紙調査結果から

○高い自己肯定感と、学校・先生への信頼感

「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に先生や大人に相談できる」と肯定的に回答した生徒の割合が、いずれも全国を大きく上回っています。

○家庭での豊かな対話と、粘り強く学ぶ姿勢

「学校の勉強や悩みについて親や家族と話す」と答えた生徒が全国と比べて非常に多く、ご家庭での温かい関わりがうかがえます。また、「自分で学び方を考え工夫できている」生徒も多く、記述問題にも最後まで粘り強く取り組む姿勢が身についています。

○英語学習への高い意欲と、ICT を活用した探究的な学び

英語について「得意」「好き」「授業の内容がよく分かる」と答えた割合がいずれも全国を大きく上回っています。また、総合的な学習の時間において、課題を設定し ICT を活用して情報を整理・発表する主体的な学びが定着しています。

●基本的な生活習慣（就寝時刻・朝食摂取）の定着

「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「朝食を毎日食べている」と答えた生徒の割合が全国をやや下回っており、朝食をまったく食べていない生徒も一定数見られます。

●普段の各教科の授業における ICT 機器の日常的な活用

総合的な学習の時間では ICT を活用できている一方で、普段の各教科の授業における PC・タブレットの使用頻度は全国より低い傾向が見られます。

●対話を通じた考えの形成と、学習改善につながる振り返り

「学級で人と違う意見を言っても否定されない」「互いの立場や考えを尊重して話し合い、結論を導く」「先生から学習の改善点や工夫の仕方を伝えられた」と実感している生徒の割合が全国よりやや低い傾向にあります。

課題と改善の方向

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果、本校の生徒は国語科・数学科ともに全体の平均正答率が全道平均・全国平均を上回る成果を収めました。英語科においても、日常的な話題に関する理解や表現の面で大きな成果が見られ、各教科を通して自分の考えや根拠を粘り強く表現する力が育っています。また、生徒質問紙調査からは、生徒が先生や家族との信頼関係の中で安心して学校生活を送り、前向きに学習に取り組んでいる様子がうかがえます。

一方で、資料やグラフから必要な情報を整理して読み取る力や、対話・発表の中で話全体の要点を捉えて自分の意見を発信する力については、今後の重点的な課題として捉えています。各教科の授業において、情報端末（タブレット等）を日常的・効果的に活用しながら、生徒同士が安心して意見を交わし、複数の情報を比較・整理して根拠を明確に説明し合う学習活動や、次の学びにつながる具体的な振り返りの指導を充実させていきます。

また、ご家庭におかれましても、お子様が日々の生活や社会のできごとに関心をもち、自分の考えを言葉で伝えたり、規則正しい生活習慣（決まった時刻の就寝や毎日の朝食摂取、家庭学習の定着）を保ったりできるよう、引き続き温かいお声がけをお願いいたします。今後とも本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします